



サステナビリティレポート
53期実績報告書



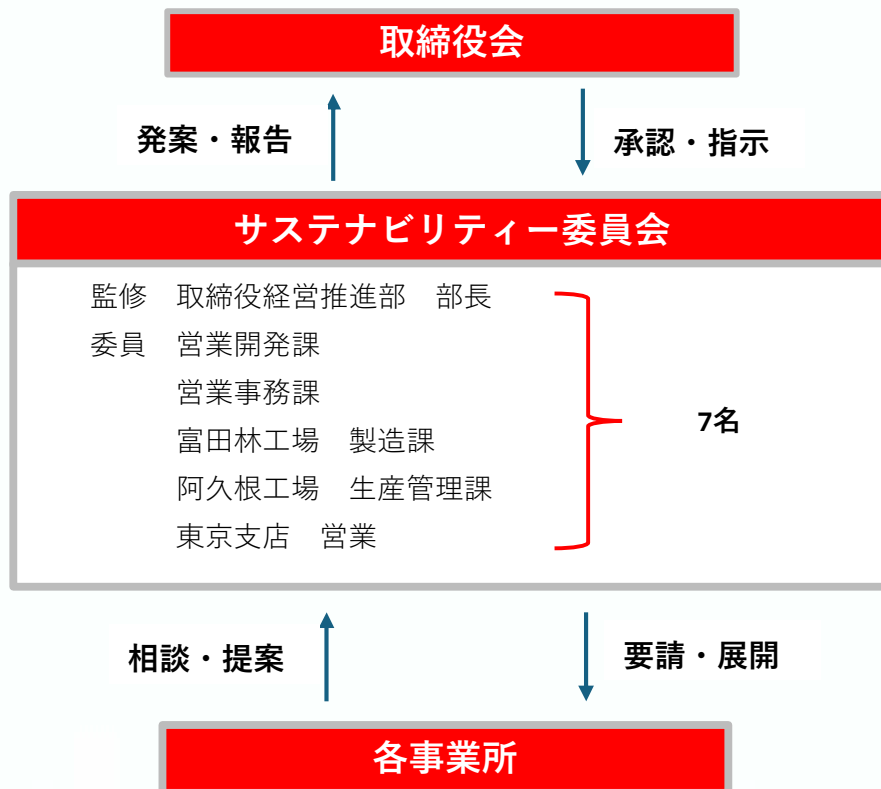
鹿児島金属株式会社



■レポートの概要

対象期間	2024年5月から2025年4月までの1年間
対象範囲	鹿児島金属株式会社に属する全事業所 本社、富田林工場、石切倉庫 東京支店、関東物流センター 福岡営業所、阿久根工場
報告サイクル 発行	年次報告として毎年(原則、6月を予定) 2025年7月18日

■サステナビリティ推進体制



53期活動実績

KAW！会議の開催

※Kagoshima Assemble for Womenの略

年に2度開催されるKAW会議！は53期も予定通りに実施されました。
通算4度目の会議担当は経理部長が議長を務め、当社に於ける女性キャリアアップ機会や女性目線の環境改善など有意義な意見交換の場になりました。
これまで1時間を目安に実施してきたこの会議も2時間を超え、オンラインで参加していた他事業所のメンバーも一同に顔を合わせることで
より活発な会議へと発展してきたように思われます。
途中で昼食も摂り、会議外でもリラックスした雰囲気が終始感じられました。
着実にブラッシュアップされており、今後もこの会議を継続し、
会社の改善に繋げて参ります。
当社では2025年5月より営業事務課を新設し、女性のキャリアアップ体制を強化します。
新たな女性役職者も増える為、更にKAW会議の位置づけも重要になってくるのではないのでしょうか。
講義の形式で始まったKAW会議は今では会社改善を立案するまで成長し、
その案は取締役会で審議されるようなフローとなりました。



世界遺産【百舌鳥・古市古墳群】の保全活動

昨年に引き続き、羽曳野市・藤井寺市が共同で開催している
ウォーク＆クリーン作戦に参加させて頂きました。
天候にも恵まれ、昨年とは違うコース・古墳を巡り、改めて良い体験が
できたと実感しました。
本活動は大阪府が推奨する健康促進アプリ”アスマイル”と連動しており、
チェックポイントを通過して、最終目的地である「唐櫃山古墳」に辿り着いた際
には記念品を頂きました。



頂いた記念品↪



脇本海水浴場の清掃

地元鹿児島県内でも有名な浜辺であり、3Kmにも及ぶ遠浅の海岸はサーフィンなどのマリンスポーツで訪れる観光客が多く、水平線に沈む夕日は絶景です。運がよければウミガメの産卵を見ることができます。

漁業が盛んな鹿児島県の海岸保全を目的として、鹿児島県にある阿久根工場のメンバーで清掃活動を行いました。



SBT(SME版)の認定

世界共通の課題となっている地球温暖化は年々と平均気温の上昇、砂漠エリアの拡大、海面上昇、異常気象などの問題を引き起こしており、1つの企業としてカーボンニュートラルへの取組は社会性、経済性、環境性あらゆる側面で必須事項となっております。

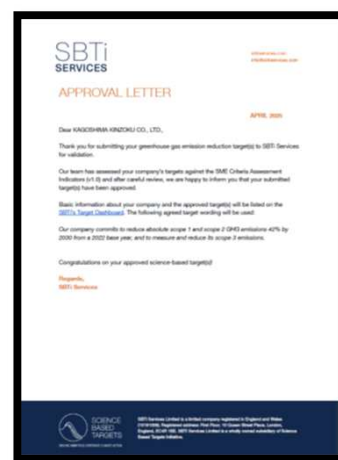
最初に自社のCO2排出量を把握するところから始まり、計画的な削減案をSDGs推進委員会を中心に試案して参りました。

取組内容の是非を確認する為、

WWFやCDPなどの国際機関が共同して運営する第三者機関であるSBTiの申請を行い、認定されました。

今後の活動詳細については

サステナビリティレポートを通じて報告させていただきます。



再生可能エネルギーへの切り替え

カーボンニュートラルを目指し、CO2排出量を削減する上で当社では関西電力より供給頂いている3つの事業所にて使用する電力の10%相当を再生可能エネルギー由来のCO2フリー電力へ切り替え致しました。

切替によるコストは上がりますが、CO2削減量は約60t-CO2に至ります。



未来のために

国内で社会問題となっている課題は様々ですが、
当社では”ヒト”にフォーカスしており、中でも
これからを担う子供達が直面する困難に少しでも
協力できればという想いで支援をさせて頂きました。
金銭的な支援ですが、これらは会社としてではなく
全従業員から集まった支援金であり、あしながサンタ
を運営する財団へ託しました。



ペットボトルキャップ&使い捨てカイロの再利用

新たな取り組みとしてペットボトルキャップ及び使い捨てカイロを
回収し、再利用して頂ける業者様へ届けました。

1年間を通して集まった量は

ペットボトルキャップが約24.7Kg(45ℓ袋で4袋)、

使い捨てカイロが約27.9Kg となりました。

これまで廃棄していたものがワクチン購入や河川の浄化に再利用されることを知
り始まった取組ですが、サーキュラーエコノミーの実現に向けた
活動になると願っております。

受 領 書

鹿児島金属株式会社 御中 No. 20250527-02
発行日 2025年5月27日

使用済みのカイロ **27.9 kg**
Go Green Cube 素材として受領いたしました。

一般社団法人 Go Green Japan
〒490-1143
愛知県海部郡木曽町山手東1-1-1
TEL: 052-444-5110

GoGreenJapan®
Recycling program started 2018

**JCV ペットボトルキャップ
寄付 証明書**

鹿児島金属株式会社 様
大府町宮後野中町ヶ谷2 番地157

受領日	重量	寄付金額	ポリオワクチン
2025/5/28	24.7 kg	247 円	12.35 人分

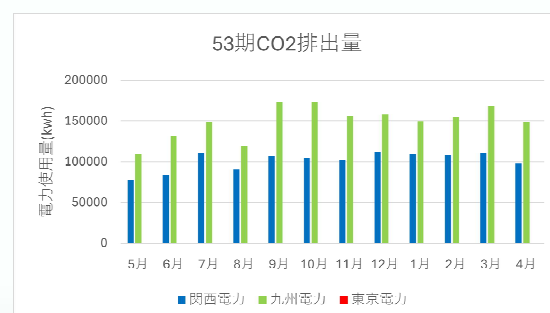
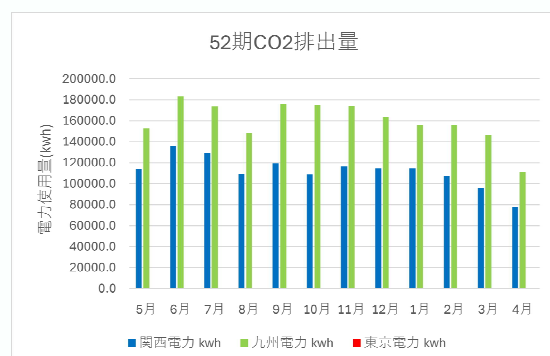
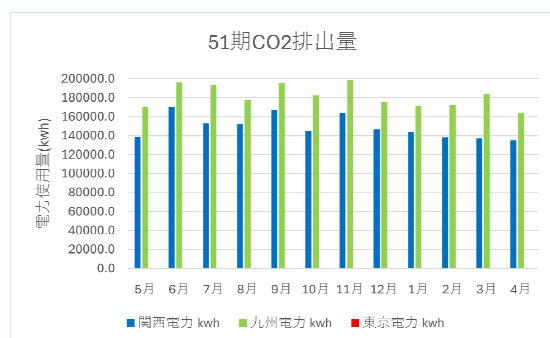
お集めしたご寄付は、ワクチンに換えて茨城県の子どもへお届けします。
またたがへてご賞状に、心より感謝申し上げます。

2025 年 7 月 16 日

認定 NPO は人 世界の子どもにワクチンを 日本委員会
東京都港区三田4-1-8 三田ビルサイドビル 8F
www.jcv-dpf.org

気候変動への対応状況

		単位	2022	2023	2024
Scope1	事業活動による直接排出	t-CO ₂	269.1	255.2	249.7
Scope2	事業活動による間接排出	t-CO ₂	1,819.6	1,469.9	1,315.0
Scope1-2		t-CO ₂	2,088.7	1,725.1	1,564.7
Scope2	再生可能エネルギーへの切替	t-CO ₂	-	-	-56.6



- 当社は基準年を2022年に設定し、CO2削減への活動に取り組んでおります。
- 直ちに結果がでるわけではありませんが、使用していない場所の消灯や工場内の省エネパトロール、不使用コンセントの調査による省エネ強化、消耗品を各事業所とまとめ買いすることでスケールアップするコスト削減施策や属人的な業務を多能工化し、生産性向上を図る合理化活動に注力しております。
- 導入コストを掛けて全社LEDへの切替や一部再生可能エネルギーへの切替にも視野を広げ、積極的に取り入れております。
- 中期的な目標として当社では2030年までにCO2使用量を基準年より42%削減することとしております。
- これまで以上に環境対策を加速させ、目標の達成に向けて活動していく所存です。

重点課題への取組状況

重点課題① 自発的な技術開発への取組	関連する項目	
	9 産業と技術革新の基盤をつくろう	12 つくる責任 つかう責任
目的	実績詳細	
メーカーとしての持続的な技術力の向上	⇒	●細穴中空の実現
工程レス・材料ロス低減による環境配慮		●薄肉パイプへの挑戦 ●部品の一体化(2ピースより)

重点課題② 女性活躍推進と健康経営	関連する項目	
	5 ジェンダー平等を促進しよう	8 働きがいも 経済成長も
目的	実績詳細	
女性の経営参画や所得増加の実現	⇒	●営業事務課を新設し、女性のキャリアマップ提示
有給取得率の向上		●KAW会議の開催(2回/年)
フレキシブルタイムの導入		●給付日数に対し40%の取得状況
労働環境の改善活動 時間外労働の削減		●部署ごとにベストな業務開始時間を設定 ●梱包作業負担軽減へ設備導入 ●朝礼や清掃,会議は定時内で実施

重点課題③ 地域社会への貢献	関連する項目	
	10 人や国の不平等をなくそう	11 住み続けられるまちづくりを
目的	実績詳細	
社会福祉施設へ作業協力依頼 販路拡大支援	⇒	●年間で287万円の作業協力を頂く
周辺地域への清掃活動 献血活動		●手作り菓子の社内販売 ●周辺古墳や海岸の美化活動 ●赤十字献血事業への参画

トップメッセージ

昨年2024年を振り返ると新型コロナウイルス感染症が感染法上の第5類へと引き下げられてから2年目を迎え、日常を取り戻したかのように社会生活が送れるようになりました。

インバウンド需要は大きく回復し、世界中で人の往来が活発化し、国内の観光地を例に見ても、多くの外国人観光客で賑わっておりますが相反してオーバーツーリズムによる社会問題が顕著化し始めております。数年前までは社会活動に大きな制限が



かけられていましたが、この変化するスピードには驚くばかりです。国外情勢に於いても軍事侵攻に終わりが見えず、世界的な物価上昇、円安による原材料やエネルギー価格の高騰は国民の生活を苦しめております。これらは国内の特に製造業は非常に厳しい1年と感じさせる要因となりました。当社では中小企業だから可能なスピード力のある様々な変革を実施し、全社、全従業員一丸となってこの逆境を乗り越えました。上記の通り、社会・環境の変化はより加速しております。製造会社の一員として社会的・環境的な責任を果たすべく、変革に伴う投資、育成には積極的に取り組んでまいります。今年は大阪・関西万博が開催され、各国、各自治体がサステナビリティや循環型社会をテーマに体现されています。SDGsの目標年でもあり、カーボンニュートラルの中間時点でもある2030年まで残り5年を切りました。中小の製造会社だからこそ実現できる課題にスピード感を持って”できることは何でもやる”を実行してまいりたいと思います。

鹿児島金属株式会社
代表取締役社長 倉津孝夫